

ゴンドラ

No.21

再訪 漢城百済博物館

2023 年度に始まった漢城百済博物館交流事業では、同年 12 月に安村館長と山根学芸員が漢城百済博物館を訪れ、長期的に情報交換や交流を進めていくこととなりました（ゴンドラ 20 を参照）。2024 年度では、11 月 27 日～12 月 1 日、山根、黒田学芸員 2 名が同博物館を再び訪れました。

前は 12 月としては異例の暖かさでしたが、今回は訪問の前日から降雪があり、ソウルでは約 16cm の雪が積もりました。後から知りましたが、これはソウルの 11 月の積雪量としては、史上最大の記録とのこと。無事、ソウルには到着したものの、欠航した航空機は多数あり、見学を予定していた市内の芳夷洞古墳群公園は、雪のため臨時閉園するなど、大きな影響が出ていました。

博物館では昨年もお会いした金志娟館長をはじめ、職員の方々には暖かく迎えていただきました。金館長とは、当館で計画の百済に関連する企画展・シンポジウムについて協議し、資料提供や人的派遣について非常に前向きな提案がありました。また漢城百済博物館の学芸員や文化財調査担当者を交え、柏原市内遺跡検討会も行いました。安村館長が分析し、百済移民の関与を指摘している鳥坂寺跡の平瓦の叩き目について（館報第 36 号を参照）、山根が研究成果を紹介し、また、ソウルの石村洞古墳群との類似性がある茶臼塚古墳について、その発掘調査を担当した黒田から最新の調査内容を報告しました。10 人ほどの会でしたが、叩き目の違いは時期差に由来するものではないかといった指摘や、茶臼塚古墳の墳丘築造工程について質問があるなど、活発な意見が交わされました。

ソウルの後、百済の歴史に関わる公州、扶余をめぐり、今回も非常に有意義な韓国訪問となりました。今回得た貴重な経験や知見を、今後の資料館での活動に活かしていきたいと思います。



漢城百済博物館にて

曹瑛焄 展示課長
金志娟 館長
金翰成 学芸士



柏原市内遺跡検討会

企画展のご案内

◎令和6年度春季企画展「周溝墓誕生」

令和7年3月22日～6月8日

大阪府文化財センターとの共同開催で、大県郡条里遺跡で見つかった弥生時代の周溝墓を中心に、弥生時代から古墳時代へと変化していく柏原の様子について紹介します。

※この企画展に関連し、大県郡条里遺跡でのもう一つの調査成果である縄文時代の資料を中心とした特集展示「縄文時代の柏原」（3月25日～6月29日）も開催します。

お知らせ

◎オンラインイベント

ビジュアルヒストリーガイド in 柏原【参加費：無料、申込み：不要】

市内の遺跡の様子をリポーターが現地から中継し、学芸員が資料館にて遺跡や出土資料の解説をします。パソコンやスマホさえあれば、ご自宅やお好きな場所から、誰でも自由にご参加いただけます。

◆毎月（3・4・8・12月を除く）最終月曜日 14:00～15:00

【参加方法】

①あらかじめ右の2次元コードを読み込み、ZOOMをダウンロード、およびインストールしておいてください。

②開始10分前になりましたら、再度、2次元コードを読み込んでください。

※ZOOM利用時の通信料は、各参加者のご負担となります。ご参加に際しては、Wi-Fi環境下での通信をお勧めいたします。



刊行物

・柏原の歴史4－平安～江戸時代－ 1,100円…『柏原市史』に替わる書籍です。最新の調査研究成果を踏まえ、写真や図を多く掲載した、わかりやすい構成になっています。

・中河内郡堅下村大字大県山崎家文書目録Ⅱ〔柏原市古文書調査報告書第19集〕 500円…柏原市大県所在の山崎家が所蔵する古文書の調査報告書です。山崎家文書は、本市の名産であるぶどう栽培や堅下地域の村政について記された貴重な史料群です。

・柏原市立歴史資料館 館報36号 400円…歴史資料館の令和5年度の活動報告とともに、調査・研究報告「百済移住民と河内六寺」「田輪樋（たのひ）をめぐる予察」を掲載しています。

柏原の歴史4

平安～江戸時代



企画展を終えて

★令和5年度冬季企画展「昔の暮らし、その道具から―手仕事の時代―」

令和6年1月13日～3月3日 見学者数 1,807 人（個人 1,248 人、団体 559 人）

★令和5年度春季企画展「古墳から古代へ―激動の柏原―」

令和6年3月23日～6月9日 見学者数 2,082 人（個人 1,742 人、団体 340 人）

★令和6年度夏季企画展「江戸時代の列島改造と国分村」

令和6年6月29日～8月25日 見学者数 2,236 人（個人 2169 人、団体 67 人）

★令和6年度秋季企画展「変化する大和川つけかえ運動」

令和6年9月10日～12月8日 見学者数 7,650 人（個人 5,615 人、団体 2,035 人）

史跡 高井田横穴公園に新たな案内板

史跡高井田横穴公園内に新たな案内板が設置されました。公園入口の「史跡高井田横穴公園」、入口から少し入った右手にある「公園内地図」、高井田山古墳への登り口にある「高井田山古墳」の計3箇所で、いずれも韓国語、英語が併記がされています。これらの案内板は、愛知県に本社のある「POSCO（ポスコ）Japan PC 株式会社」から寄贈されたもので、2023年5月に、韓国と歴史的なつながりのある柏原市の高井田山古墳に案内板を設置したい、という申し出を受けたことに始まります。同社の親会社である韓国最大の鉄鋼メーカー「POSCO」は、日韓友好と社会貢献の一環として、自社の素材・技術を使った看板・案内板の寄贈を行っている、とのことでした。

デザイン案の検討から、韓国での製作、日本への搬入まで1年以上を要し、2024年9月に設置が完了、10月2日に当館にて贈呈式が行われました。式では、市長から同社へ感謝状が贈られ、記念写真を撮影後、関係者に向けて安村館長が公園内や高井田山古墳を案内・解説しました。

偶然ですが、10月22日にソウル大学の教授、大学院生10数人が、大阪・奈良の韓国と関係の深い遺跡を訪問する研修旅行で高井田山古墳を訪れ、新たな案内板に見入っていました。

高井田山古墳を軸にした交流は、先に紹介した漢城百済博物館交流事業だけでなく、様々な形となって表れています。同古墳の歴史的な価値は、今後もますます高まっていそうです。



新設の入口案内板での記念写真
左：富宅市長、右：POSCO Japan PC 株式会社代表取締役社長 朴昌煥氏



新設の高井田山古墳案内板
（ソウル大学研修旅行）

「かしわらこども歴史講座」スタート

令和5年度から当館の新たな講座として「かしわらこども歴史講座」が始まりました。これまで大人向けの講座は多く開催してきましたが、こどもたちを対象にした講座はなく、開催を望むご意見をいただいていたこともあり、体験学習を除き、初めての小中学生を対象にした講座を開催しました。

こどもたちが自分たちの住む柏原市の歴史や文化財に関心を持って、市内にある史跡や歴史に関する知識を伸ばし、千数百年前の瓦や土器など“ホンモノ・実物”に触れるドキドキワクワク体験を提供したいという企画です。夏休み期間を利用した4日間と短いプログラムですが、講師は当館の学芸員が務め、歴史クラブのご協力もいただき、「昔の文字をかく」「綿から糸を紡ぐ」「横穴に入る」「土器に触れる」「文様をつくる」などのテーマですすめました。

講座初日は自己紹介をかね、変体仮名を使って「昔の文字をかく」ことに挑戦。自分たちの知る平仮名やカタカナとは少し違う、変体仮名で自分の名前を書いて古代人気分で名乗り合いです。「綿から糸を紡ぐ」には大和川のなりたちと綿栽培を学んで、人々の暮らしぶりを知り、実際に綿繰り機や糸車を操って糸を紡いでみました。「横穴に入る」時は、観察ノートを片手に、宝探ししながら、線刻壁画だけでなく新しい発見がないか、暗い中を目を凝らしていました。刷毛やブラシを使って土器洗いをし、「土器に触れる」だけでなく、洗った土器を用いて拓本をつくりました。市内の遺跡発掘現場にも出かけました。講座終了後は、「かしわら歴史 KIDS」として、歴史資料館で実施する特別公開などの行事にもボランティア活動として参加してもらっています。

まだまだ収蔵庫で出番を待っているたくさんの資料もあり、学んでほしいこともたくさんです。今後も継続し、多くのこどもたちに参加いただけると嬉しいです。



「糸紡ぎ」に挑戦中

ひとこと

この Gondola が発行されて間もなく、世界中から約 160 もの国が参加する「大阪・関西万博」が始まります。期間中に開催される「大阪ウィーク」の柏原市ブースでは、当館の常設展示室にあるデジタル絵巻「龍田古道」の展示や、綿繰り機、糸車を使った綿繰り、糸紡ぎ体験を予定しています。当館でも、万博にちなんだスポット展示を予定していますので、ぜひお楽しみに！（W.Y.）



ホームページ2次元コード

柏原市立歴史資料館

休館日 月曜日（祝日は開館）、年末・年始

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料 無料

〒582-0015 大阪府柏原市高井田 1598-1 TEL：072-976-3430